

【実践報告】保育士養成課程におけるコロナ禍での保育実習Ⅰ（保育所） および保育実習Ⅱの取り組み

小林 小夜子⁽¹⁾・佐藤 有子⁽²⁾

2020年度保育所実習（保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱ）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初予定していた実習時期、実習依頼先および実習内容での実施が困難となった。すなわち、実習先保育所での2単位10日間の実習が困難となったため、一部実習施設（保育所）における実習と学内での対面による代替実習を行い、90時間45コマの2単位分を実施した。コロナ禍の状況変動の中でどのように対処しながら実習を実施していったか、今後の非常事態体制下における保育士養成における実習の一助になることを願って、その取り組みを紹介することとした。主な工夫点は、①3密を避けるための工夫、②模擬保育実践場所と観察場所をオンライン会議システムで結ぶリアルタイム型システムの導入、③学外ゲストティーチャーの協力による学内実習指導、であった。本取り組みについて、本研究に協力を得られた受講生49人の実習後に提出された反省・感想等をテキスト分析した結果、学内代替実習に関する受講生自身の学びの様子がうかがえた。

キーワード：保育士養成課程、学内代替実習、コロナ禍、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅱ

1. はじめに

保育士養成機関では、2020年度の保育所及び施設での保育実習の実施が困難を極めた。なぜならば、新型コロナウイルス感染拡大によって、実習受け入れ先である保育施設から受け入れが許可されない状況が生じたからである。実習受け入れ先の利用者（子ども・家族等）だけではなく、保育士等の職員に加えて、本学の実習生自身の健康状況に万全を期す必要があったからである。

コロナ禍での実習実施について、広島県健康福祉局安心保育推進課長は、厚生労働省子ども家庭局保育課事務連絡¹⁾（2020年3月2日付）を2020年3月3日に「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士施設の対応について（通知）」²⁾として、また、厚生労働省子ども家庭局保育課事務連絡（2020年6月15日付）³⁾を2020年6月17日に「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士施設の対応について（依

頼）」⁴⁾として、各指定保育士養成施設長に宛てた。この6月17日付の依頼には、「なお、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、「保育実習ⅠからⅢ」の一部または全部の実施が困難となり、演習又は学内実習等によらざるを得ないと判断された際は、事前に当課へその内容（代替的手段の実施方法、時期、対象となる学生の学年と人数）を報告してください（様式は任意）。」と記載されていた。

これらの事務連絡に基づき、著者らは本学の「保育実習Ⅰ（保育所）」及び「保育実習Ⅱ」に関わる保育所実習の担当者として、実施に当たっては、本学保育実習小委員会で検討を重ねながら、学生の最善の利益を第一に考え、安全・安心でかつできる限り本来の実習に近い形態で実施できるよう、実習計画を立案し実施することとした。感染拡大の状況によって計画は、二転三転したが、最終的に、2020年度内の2021年3月までに保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅱを終了

⁽¹⁾福山市立大学教育学部児童教育学科 e-mail: s-kobayashi@fcu.ac.jp

⁽²⁾福山市立大学教育支援センター

することができた。

コロナ禍における他大学の実習についての報告は、まだ少ない。「保育実習」と「コロナ禍」をキーワードとして、グーグルスカラーで「and」検索したところ、143件上がっていた(2021年10月1日現在の検索)。しかしながら、保育実習の実践を取り扱った内容の報告は、約11件であった。その内訳は、施設実習に関する報告(藤原・宮下, 2021⁵⁾; 松居, 2021⁶⁾、保育所実習に関する報告(板倉, 2020⁷⁾; 志濃原・大熊・三好・浅井・北澤・鳥海・関, 2021⁸⁾; 高橋・山口・北野, 2021⁹⁾; 児玉・太田・井出・谷村・服部・山本, 2021¹⁰⁾、幼稚園教育実習の事前指導に関する報告(三宅・児子・湯澤・池田, 2021¹¹⁾; 板倉, 2020¹²⁾、特別支援学校教育実習に関する報告(今野・原田・矢野, 2021¹³⁾、保育実習に対する学生の心理に関する報告(佐野・大和・鶴・宇野・小尾・久米・中井・西本・大槻・白井, 2021¹⁴⁾; 小湊・鳥越・望月・青木, 2021¹⁵⁾、ソーシャルワーク実習に対するオンライン実習の検討に関する報告(灰谷, 2021¹⁶⁾)であった。これらの報告のうち、保育実習として対面での学内代替実習を行っているのは、希少である(藤原・宮下, 2021¹⁷⁾; 児玉・太田他, 2021¹⁸⁾)。

このような新型コロナウイルス感染拡大による非常事態体制下における実習の実施についての記録が、後世に重要な意味を持つと考える。福山市においては、第二次世界大戦直後における保育の取り組みとして福山市立東幼稚園の報告が残っており(徳良, 1948)¹⁹⁾、保育の重要な手掛かりとして貴重な存在である(水野, 1980)²⁰⁾。非常事態はいつ起こるかかわからない。このような中、記録として残しておくことの重要性から、今後の非常事態体制下における参考になることを願って、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅱの実習を担当する教員として、今回その取り組みを報告することとする。

2. 実習実施の経過と内容

本学の保育所での実習は、すべて福山市の公立保育所で実施される。当初、保育所実習は、保育実習Ⅰ(保育所)が2020年6月26日(金)から7月11日(土)、保育実習Ⅱが2020年7月17日(金)から8月2日(土)までのうちのそれぞれ10日間を予定していた。新型コロナウイルスの感染拡大によって当初の予定では、実習できないことになり、次の予定として、8月1日

(土)から8月13日(木)、9月5日(土)から9月7日(月)の2日間と9月12日(土)から9月23日(水)の8日間合計10日間を予定したが、直前になり、新型コロナウイルスの感染拡大によって実施不可能となった。福山市保育指導課より、現場保育所での観察実習が10月1日から年内までは1日1時間合計3日間、また2021年の1月から3月までは1日3時間合計6日間の実習が10月1日時点で可能(見込み)となったとの連絡を受けた。ただ、本学ではすでに3学期が始まっており、学生は他の授業科目と重複するために、平日は実習先保育所に出向くことができない。また、実習先の1つである附属こども園での実習は、幼稚園実習(3年次生)も行われることから、実習期間が重複した場合のことを考え、実習先としての配属を取りやめ、他の市立保育所での実習先へと変更した。そこで、保育実習Ⅰ(保育所)では、10月から11月の土曜日のうち3回を実習先保育所へ学生を観察実習に出向かせることとした。また、保育実習Ⅱでは、3月8日(月)から3月13日(土)までに6日間部分・参加実習に出向く計画を立てた。いずれの実習においても保育現場での実習だけでは、実習時間が不足するため、不足分を学内で代替実習することとした。その実施計画を表1および表2に示している。

学内代替実習では、実習記録の取り方や振り返りの仕方を指導し、さらに部分指導計画の立案と模擬保育を実施した。また、外部のゲストティーチャーとして福山市保育指導課保育専門員および広島県教育委員会乳幼児教育支援センターアドバイザーの協力を得て、保育室での感染症対策の実際や週案の立て方など、より実践に沿った内容となるよう計画した。また、例年と異なるため、実施計画を広島県健康福祉局安心保育推進課へ事前に提出した。加えて、実習の開講期や内容が例年と異なってきたため、教務事項の変更が教授会で承認された。

学内での代替実習時に体調がすぐれない場合は、チームスによるオンライン参加を許可した。ただし、保育所での現場実習では、別日に補充実習を行った。

表1 保育実習Ⅰ（保育所）の実施計画

回(コマ)	日時	曜日	時限	内容	教室等
1	10月24日	土	1	保育所観察実習	実習保育所
2	10月24日	土	2	保育所観察実習	実習保育所
3	10月27日	火	1	記録	中B
4	10月27日	火	2	第1回観察実習の振り返り	中B
5	10月27日	火	4	ゲストティーチャーによる指導・助言（子どもの実態）	大講義室
6	11月7日	土	1	保育所観察実習	実習保育所
7	11月7日	土	2	保育所観察実習	実習保育所
8	11月10日	火	1	記録	中B
9	11月10日	火	2	第2回観察実習の振り返り	中B
10	11月10日	火	4	ゲストティーチャーによる指導・助言（危機管理）	中A・中C
11	11月14日	土	1	保育所観察実習	実習保育所
12	11月14日	土	2	保育所観察実習	実習保育所
13	11月17日	火	1	記録	中B
14	11月17日	火	2	第3回観察実習の振り返り	中B
15	11月17日	火	4	模擬保育に向けての指導案作成	中A
16	12月22日	火	1	模擬保育（0歳児クラス）	書道室・中C
17	12月22日	火	2	模擬保育（0歳児クラス）	書道室・中C
18	12月22日	火	3	模擬保育振り返り	中C
19	12月22日	火	4	保育内容の研究	中C・中D
20	12月22日	火	5	保育内容の研究	中C・中D
21	12月23日	水	1	模擬保育（1歳児クラス）	書道室・中C
22	12月23日	水	2	ゲストティーチャーによる指導・助言（保育内容）	中C・中D・小F
23	12月23日	水	3	模擬保育（1歳児クラス）	書道室・中C
24	12月23日	水	4	模擬保育振り返り	中C
25	12月23日	水	5	保育内容の研究	中C・中D
26	12月24日	木	1	模擬保育（2歳児クラス）	書道室・中C
27	12月24日	木	2	模擬保育（2歳児クラス）	書道室・中C
28	12月24日	木	3	模擬保育振り返り	中C
29	12月24日	木	4	保育内容の研究	中C・中D
30	12月24日	木	5	保育内容の研究	中C・中D
31	12月25日	金	1	模擬保育（3歳児クラス）	書道室・中C
32	12月25日	金	2	ゲストティーチャーによる指導・助言（子ども理解）	中C・中D・小F
33	12月25日	金	3	模擬保育（3歳児クラス）	書道室・中C
34	12月25日	金	4	模擬保育振り返り	中C
35	12月25日	金	5	保育内容の研究	中C・中D
36	12月26日	土	1	模擬保育（4歳児クラス）	書道室・中C
37	12月26日	土	2	模擬保育（4歳児クラス）	書道室・中C
38	12月26日	土	3	模擬保育振り返り	中C
39	12月26日	土	4	保育内容の研究	中C・中D
40	12月26日	土	5	保育内容の研究	中C・中D
41	12月27日	日	1	模擬保育（5歳児クラス）	書道室・中C
42	12月27日	日	2	模擬保育（5歳児クラス）	書道室・中C
43	12月27日	日	3	模擬保育振り返り	中C
44	12月27日	日	4	保育内容の研究	中C・中D
45	12月27日	日	5	保育内容の研究	中C・中D

表2 保育実習Ⅱの実施計画

回(コマ)	日時	曜日	時限	内容	備考
1	3月8日	月	1	保育所実習	部分を含む
2	3月8日	月	2	保育所実習	
3	3月8日	月	3	保育所実習	
4	3月9日	火	1	保育所実習	部分を含む
5	3月9日	火	2	保育所実習	
6	3月9日	火	3	保育所実習	
7	3月10日	水	1	保育所実習	部分を含む
8	3月10日	水	2	保育所実習	
9	3月10日	水	3	保育所実習	
10	3月11日	木	1	保育所実習	参加・部分を含む
11	3月11日	木	2	保育所実習	
12	3月11日	木	3	保育所実習	
13	3月12日	金	1	保育所実習	参加・部分を含む
14	3月12日	金	2	保育所実習	
15	3月12日	金	3	保育所実習	
16	3月13日	土	1	保育所実習	参加・部分を含む
17	3月13日	土	2	保育所実習	
18	3月13日	土	3	保育所実習	
19	3月15日	月	1	模擬保育(0歳児クラス)	学内
20	3月15日	月	2	模擬保育(0歳児クラス)	
21	3月15日	月	3	模擬保育振り返り	
22	3月15日	月	4	ゲストティーチャーによる指導・助言(乳児保育の実際)	
23	3月15日	月	5	保育内容の研究	
24	3月16日	火	1	模擬保育(1歳児クラス)	学内
25	3月16日	火	2	模擬保育(1歳児クラス)	
26	3月16日	火	3	模擬保育振り返り	
27	3月16日	火	4	ゲストティーチャーによる指導・助言(発達を踏まえた保育)	
28	3月16日	火	5	保育内容の研究	
29	3月17日	水	1	模擬保育(2歳児クラス)	学内
30	3月17日	水	2	模擬保育(2歳児クラス)	
31	3月17日	水	3	模擬保育振り返り	
32	3月17日	水	4	保育内容の研究	
33	3月18日	木	1	模擬保育(3歳児クラス)	
34	3月18日	木	2	模擬保育(3歳児クラス)	
35	3月18日	木	3	模擬保育振り返り	
36	3月18日	木	4	ゲストティーチャーによる指導・助言(保育士の業務)	
37	3月19日	金	1	模擬保育(4歳児クラス)	
38	3月19日	金	2	模擬保育(4歳児クラス)	
39	3月19日	金	3	模擬保育振り返り	
40	3月19日	金	4	保育内容の研究	
41	3月19日	金	5	保育内容の研究	
42	3月22日	月	1	模擬保育(5歳児クラス)	学内
43	3月22日	月	2	模擬保育(5歳児クラス)	
44	3月22日	月	3	模擬保育振り返り	
45	3月22日	月	4	ゲストティーチャーによる指導・助言(保育士としての責務)	

保育所実習新型コロナ対策ガイドラインの策定 表3
には、保育所実習新型コロナ対策ガイドラインを示している。実習生は、マスク着用および3密の回避を行い、このガイドラインに沿って行動し、図1に示す「体調管理カード」に記入することが求められた。実習生は、保育実習実施期間が変更せざるを得なかったこと

から、いつ開始されても対応できるように2020年6月から記入を開始し、結局、実習終了2週間後までの2021年4月まで継続することになった。記入した体調管理カードは、実習日誌バインダーの表紙裏に貼付し、実習先へ提示させた。

表3 本学における保育所実習新型コロナ対策ガイドライン

1	実習実施の1か月前から、実習終了2週間後まで、実習体調管理表に検温及び風邪症状のチェックを行うとともに、感染リスクの高い場所に行く機会（会食、カラオケ、ライブなど）を減らすなど、感染症対策を徹底しておこなうこと。 家族等の感染が確認されるなど実習生が濃厚接触者に特定された場合、ただちに大学の実習担当者と実習施設の実習担当者に連絡し、その日から起算して、2週間は事前事後指導、実習への参加は控えることとする。
2	実習実施の2週間前からアルバイトは行わないこと。実習中のアルバイトは禁止とする。
3	実習中は、体調管理表を用いた体調のチェックに加えて、手洗い、咳エチケットなどを徹底的に行い、体調の状況を毎朝、実習施設に報告すること。
4	実習中は、受け入れ施設の感染症対策の指示に従うとともに、発熱（37.5℃以上）等の風邪症状やその他体調不良が見られる場合には、施設の職員と相談の上、園児、利用者との接触は絶対に避け、自宅で休養するとともに、医療機関に電話連絡したのちに受診する。その結果を施設の実習担当者と大学の実習担当者に報告すること。
5	実習終了後に、発熱等の風邪症状やその他体調不良が見られる場合は、大学の実習担当者にただちに報告し、自宅で休養するとともに、医療機関に電話連絡したのちに受診する。その結果を大学の実習担当者に報告すること。
6	他の学生や施設の園児、利用者、職員、その家族等の感染が判明した場合や、地域の感染拡大の状況等により、急速実習を中止せざるを得ない場合もあるので、実習中に、実習施設での感染が判明した場合は、直ちに大学の実習担当者に連絡し、指示を仰ぐこと。
7	実習中の状況により、十分に実習ができなかった場合、大学は、補充実習を行うか、事後指導等によって、必ず補修する。

学籍番号	学生名前													
毎日、検温し、健康状況を記入してください。														
日付	10月7日		10月8日		10月9日		10月10日		10月11日		10月12日		10月13日	
体温	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
症状 (○をつける)	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常
	その他の 症状													
日付	10月14日		10月15日		10月16日		10月17日		10月18日		10月19日		10月20日	
体温	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩	朝	晩
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
症状 (○をつける)	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常	特になし 咳・鼻水 のど痛・ だるさ・味 覚異常・嗅 覚異常
	その他の 症状													

図1 保育所実習における体調管理カード

3. 学内代替実習の学習内容

学内代替実習での学習内容は、乳幼児演習室類似の環境（書道教室）を使用した模擬保育を行って保育所での実習に近似するように試みた。学内代替実習を効果的に行うために、本学の「保育実習（保育所）の手引き2020年度用」²¹⁾における保育所実習の目標（p. 13-14）および実習評価票の項目と一般社団法人全国保育士養成協議会による保育実習指導のミニマムスタンダード²²⁾を参考に、学習内容の項目を検討

した。表4には保育実習Ⅰ（保育所）について、表5には保育実習Ⅱについて学習内容の項目をあげた。

保育実習Ⅰ（保育所）での実習生の学び方は、表4に示すように保育現場で子どもや保育士の姿に触れ、観察や関わりを通して具体的に理解するというものである。また、保育実習Ⅱでは、実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえて表5に示すように自らの実践を通して具体的に総合的に学ぶことが基本となる。したがって、保育所の役割や機能、保育の計画—実践—記録と省察

表4 保育実習Ⅰ（保育所）の学習内容

主な項目	具体的内容
保育所の役割と機能の理解（保育所保育の理解）	保育所の1日の生活の流れと保育の展開の理解、子どもの生活と遊びを中心としたさまざまな保育場面の特徴や目的を理解する。
子ども理解	0歳から6歳という年齢の発達期にある子ども集団がどのように仲間と過ごし育っていくのかについて観察を通して理解する。
保育内容と環境構成	発達過程に応じた保育内容について、保育計画と関連させながら理解する。生活や遊びのさまざまな場面における援助と環境構成の工夫について知る。子どもの健康と安全の観点から保育士の援助と環境構成を学習する。
保育の計画・観察・記録	保育実践をどのように記録することが保育理解、子ども理解、自身の実践の省察につながっていくのか、自身の実習記録作成とそれに基づいた指導によって理解する。
専門職としての保育士の役割と職業倫理	生活や遊びのさまざまな場面に応じた援助内容と役割分担、保育士間の連携について理解する。子どもや家族のプライバシー保護、守秘義務など保育士として求められる高い倫理観を理解する。

表5 保育実習Ⅱの学習内容

主な項目	具体的内容
保育所の役割や機能の具体的展開	保育実習Ⅰ（保育所）や他の科目で理解した保育所の役割や機能が実習先の保育所でどのように展開されているか、様々な具体的場面を体験しながら理解する。
観察にもとづく保育理解	単に対象を理解するための観察ではなく、自分自身が保育士としてどのように保育を構築していくかといった視点に立って観察する。観察対象は、子ども、保育士、保育所の生活全体を微視的、巨視的視点を持って観察し理解する。
子どもの保育および保護者・家庭への子育て支援と地域社会党との連携	環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的指導・援助といった保育の基本となる考えを保育実践を通して、具体的に理解する。
指導計画の作成・実践・観察・記録・評価	実際に指導計画を立てて実践する「指導実習」を行い、自らの関わりと観察したことを記録し、その記録を基に評価し自己課題を明確化する。
保育士の業務と職業倫理	子どもの最善の利益や人権を尊重すること、子どもの代弁者として意見を伝えること、プライバシー保護守秘義務、自己研鑽など、高い職業倫理を持つ。
実習における自己課題の明確化	実習を踏まえ、今後保育士資格を取得して保育士を目指す自己の課題を明確化する。

について、実際に体験しながら理解を深めることが求められる。

学内実習での模擬保育実践の保育環境 本学には、乳幼児演習室がないため、学内実習での模擬保育実践を行う保育環境の構築には、場所と実施期間との調整が必要であった。水道や流し場が設置されており、机・椅子が移動可能、簡便でかつ模擬保育を実施できるスペースを必要とする。この条件を満たす教室として本学では書道教室が候補に挙がった。しかしながら、平常の授業で使用している教室であり、また、実習生も平日は別の授業を受講している。そのため、先述のとおり、保育実習Ⅰ（保育所）では、冬休みの期間を、また保育実習Ⅱは春休みの期間を使用して、学内代替実習における模擬保育の場とした。図2には、模擬保育を実践する前に設定した模擬保育環境を示す。

模擬保育の環境は、図3に具体例として示すように、子どもの年齢や保育のねらい・内容によって、学生が自由に構成する。



図2 学内代替実習での模擬保育実践を行う前の保育環境設定



図3 子どもの年齢や保育のねらい・内容にあわせて変化させた模擬保育の環境構成の例

書道教室での模擬保育の実践は、3密を避けるため、グループ編成を行った。保育士役と子ども役の人数は、密を避けるため、合わせて10人程度とした。模擬保育実践グループ以外の学生は、他の教室でオンライン講義システムを活用したリアルタイム型によるオンラインで模擬保育を視聴した。録画を行い、振り返りの際の参考資料としても活用した。この1グループは、実習先保育所ごとに配属された3か所の保育所メンバーの集合でおよそ10人程度から構成されている。1か所の保育所のメンバーが保育者役になるときは、残りの2か所の保育所メンバー7-8人は子ども役を演じた。具体的には、この模擬保育室の書道室で模擬保育に参加していない学生は、他の教室で、オンラインを通してスクリーンに映写された画面を視聴する。つまり、テレビ会議システムを使用し、模擬保育場面をチームス上に取り込み、他の教室においてチームス上のオンラインで結び、視聴した。チームスを使用し双方向で、模擬保育に対するディスカッションを行ったり、ディスカッションに基づいて再度実践を行ったりする。これが終了した後、交代し、保育者役を演じた1か所の保育所のメンバーは子ども役になり、子ども役を演じた2か所の保育所のうち、1か所の保育所のメンバーが保育者役になり、保育実践を行っていく。順次、交代し模擬保育を行う。各保育所に配属された実習生は、全員0歳児から5歳児の子ども役と保育者役を経験する。1グループの3保育所が一巡して模擬保育を終了すると、別室で視聴していたグループと交代して模擬保育を実施する。これを繰り返した。

保育者役は、模擬保育開始前に環境構成を行い、年齢クラス、保育のねらい・内容を別室で視聴している実習生に知らせる。模擬保育のねらい・内容はそれぞれ異なるため、一日の流れを捉えて、環境の再構成等について実践的に学習する。1つの模擬保育が終了したところで、実際に模擬保育を行った保育者役と子ども役への質疑応答の時間と反省・感想や課題等を述べてもらい、別室で視聴している学生と意見交換を行った。

模擬保育の学習内容は、表6に示すように、保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱでは異なる。実習保育所現場での実習内容が異なったからである。保育実習Ⅰ（保育所）の現場での実習内容は、園庭で遊んでい

る子どもたちの観察実習であり、クラスが限定されていない異年齢交流の場の見学・観察実習であるのに対し、保育実習Ⅱの現場での実習内容は、固定クラスに配属された部分・参加実習となったからである。今回コロナ禍での特徴的な現場での実習様式に合わせて、学内代替実習の模擬保育における保育実習Ⅰ（保育所）では、17か所に配属された実習保育所をグループ最小単位として、配属保育所ごとに全員が0歳児クラスから5歳児クラスの保育者役と子ども役を経験する。一方、保育実習Ⅱでは、配属された保育所ごとではなく、実習した年齢の固定クラスごとにグループ編成した。最小単位は、固定クラスの年齢別に2人から4人程度で構成され、結果的に0歳児クラス1グループ、1歳児クラス3グループ、2歳児クラス5グループ、3歳児クラス4グループ、4歳児クラス2グループ、5歳児クラス1グループの合計16グループとなった。書道教室での模擬保育の実践では0歳児グループから順次3グループで10人程度となるよう構成され、保育所で経験した年齢ごとの研究保育を一人一人実践した。

書道教室での模擬保育の実践時期は、保育実習Ⅰ（保育所）では12月22日（火）から12月27日（日）の6日間、保育実習Ⅱでは3月15日（土）から3月22日（月）のうち6日間（3月20日を除く）であった。

4. 学生の振り返りから

今回コロナ禍により例年と異なる実習形態で上述のように実施してきた保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱについて、それぞれの実習終了後、最終の事後指導後に自由記述式で振り返りをしてもらった。以下に振り返りの概要を示す。

研究協力者 本学教育学部保育コース学生で2020年

度「保育実習Ⅰ（保育所）」および「保育実習Ⅱ」を受講した実習生であった。本実践報告書を作成するにあたり、2021年10月5日書面にて協力を求め、研究協力の許諾が得られた49人であった。

振り返りの課題 保育実習Ⅰ（保育所）では、保育実習Ⅰ（保育所）を終えて、理解したことや反省・感想、また実習Ⅱに向けた抱負など、1000字程度にまとめよう求めた。また、保育実習Ⅱでは、保育所実習Ⅱとして、保育所実習6日間および学内代替実習6日間を振り返って、学んだことや感想を500字程度でまとめよう求めた。

回答期間 保育実習Ⅰ（保育所）は2月4日から2月25日、保育実習Ⅱは3月22日から3月31日であった。回収率は、100%であった。

研究倫理 2020年度の厳しいコロナ禍での保育所実習について、どのように実習を実施してきたか、実践報告を本学の研究紀要に投稿したいと考えていること、その中で、学生の意識等についても言及して、今後の実習に役立てていきたいと考えていること等の趣旨説明を行った。続いて、その方法として、「2020年度保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱ」事前事後指導の中で提出を求めた反省・感想等をテキスト分析し、学生のとらえ方について報告していくことを説明した。加えて、本研究において個人が特定されることは絶対ないこと、また、成績とも全く関係ないことを説明し、これらの内容を文書で記述した用紙を配布し、賛同・協力を依頼した。

分析方法 49人分の記入内容をKH Coderによる計量テキスト分析（樋口、2014）²³⁾を行った。

結果

保育実習Ⅰ（保育所）：文書の単純集計が891文、150段落となり、まず初めに頻出150語をリストアップし

表6 保育環境として書道教室を利用して行う模擬保育の主な学習内容

保育実習Ⅰ（保育所）		保育実習Ⅱ	
学習内容	実践者	学習内容	実践者
0歳児クラスの保育（部分）の実践と環境構成	実習保育所を単位とした 実習生全員	0歳児クラスの研究保育の実践と環境構成	0歳児クラスの実習経験者全員
1歳児クラスの保育（部分）の実践と環境構成		1歳児クラスの研究保育の実践と環境構成	1歳児クラスの実習経験者全員
2歳児クラスの保育（部分）の実践と環境構成		2歳児クラスの研究保育の実践と環境構成	2歳児クラスの実習経験者全員
3歳児クラスの保育（部分）の実践と環境構成		3歳児クラスの研究保育の実践と環境構成	3歳児クラスの実習経験者全員
4歳児クラスの保育（部分）の実践と環境構成		4歳児クラスの研究保育の実践と環境構成	4歳児クラスの実習経験者全員
5歳児クラスの保育（部分）の実践と環境構成		5歳児クラスの研究保育の実践と環境構成	5歳児クラスの実習経験者全員

表7 保育実習Ⅰ（保育所）実習後の振り返りにおける頻出150語のリスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	537	関わる	30	特に	15
保育	516	関わり	29	勉強	15
実習	322	部分	29	楽しい	14
思う	226	聞く	29	計画	14
観察	167	今回	28	次	14
自分	151	仕方	28	自身	14
見る	141	興味	27	集中	14
考える	133	様々	27	重要	14
遊び	125	工夫	26	書く	14
実際	121	構成	26	身	14
年齢	121	人	25	展開	14
学ぶ	105	日誌	25	得る	14
感じる	99	持つ	24	学べる	13
活動	92	想定	24	交流	13
行う	87	それぞれ	23	使う	13
様子	83	グループ	23	思い	13
模擬	82	違う	23	成長	13
声	79	機会	23	伝える	13
先生	75	内容	23	読む	13
学内	71	行く	22	臨機応変	13
子ども役	67	多く	21	意図	12
発達	65	今	20	外	12
姿	59	指導	20	活かす	12
現場	53	視点	20	決める	12
大切	53	庭	20	残る	12
行動	52	参加	19	準備	12
対応	52	子供	19	深める	12
たくさん	45	体験	19	短い	12
環境	45	段階	19	ルール	11
気持ち	45	反応	19	一緒	11
援助	43	予想	19	応じる	11
時間	43	同士	18	嬉しい	11
良い	41	目	18	起きる	11
難しい	40	学び	17	強い	11
言葉	39	楽しむ	17	教える	11
出来る	39	気づく	17	言う	11
子	38	終える	17	向ける	11
実践	38	少し	17	参考	11
他	37	不安	17	授業	11
経験	36	周り	16	場合	11
分かる	35	生かす	16	心	11
知る	34	前	16	振り返る	11
合わせる	33	相手	16	捉える	11
場面	33	反省	16	大きい	11
理解	33	意識	15	目線	11
遊ぶ	32	違い	15	立場	11
気	31	印象	15	いろいろ	10
多い	31	実感	15	演じる	10
必要	31	知識	15	改めて	10
園	30	動き	15	絵本	10

た。その結果を表7に示す。さらに、最小頻出数を20以上とした上でJaccard法を用いた共起ネットワークを作成した。結果は、図4に示すとおりである。

保育実習Ⅱ：文書の単純集計が545文105段落となり、保育実習Ⅰ（保育所）と同様に頻出150語をリストアップし、その後共起ネットワークを作成した。その結果として、表8には頻出150語のリストを図5には実習Ⅱにおける共起ネットワークを示す。

保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱの対応分析：それぞれの実習を特徴づける語をリストアップしたところ、表9の結果が得られた。更に語の最小頻出数を30とし、外部抽出を実習名として対応分析を行った結果、図6に示した結果が得られた。

その他：保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱの頻出150語のリストには上がっていなかったが、「感謝」という語が、保育実習Ⅰ（保育所）では出現数4、保育実習Ⅱでは出現数5であった。また、「うれしい」は、それぞれ、出現数4と6であった。

考察

学生の振り返りから、表4や表5に掲げた学習内容について、保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱの学習内容を表す語が抽出され共起されていた。表9に示した保育実習Ⅰ（保育所）を特徴づける語は、表4に掲げる学習内容のキーワードである「子ども」「保育」「観察」「遊び」「年齢」などが抽出されていた。また、保育実習Ⅱを特徴づける語は、表5に掲げる学習内容のキーワードである「自分自身が保育士」に対応する「自分」や「先生」の語があげられている。また、

「指導実習」の学習内容に対応する「部分」があげられていた。図6の対応分析結果では、出現パターンに取り立てて特徴のない語が、原点(0,0)の付近にプロットされる。原点から見て、実習Ⅰの方向でかつ原点から離れている語、すなわち、「観察」「気」「遊ぶ」「遊び」などが保育実習Ⅰ（保育所）を特徴づける語といえる。これは、表9から読み取れたのとおおむね同様の特徴をこの対応分析からも読み取ることができる。同様に実習Ⅱでは、「クラス」「代替」「絵本」「部分」などが保育実習Ⅱを特徴づける語と言える。表9では、「学内」が挙がっており、「学内代替」として、研究保育内容として「絵本」の「部分」を取り上げ、各年齢「クラス」での実習というように読み取ることができる。今回の実習体制で学んだことが表現されているととらえられる。

以上のことから学内代替実習において計画した保育実習の学習内容に対する学びが得られたのではないかと推察される。

また、「感謝」や「うれしい」といった語が出てきた。これらの語は、一人が何度も使用しないため、少数ではあるが、実習できたことに対するうれしさや感謝の念が伝わる内容であった。

しかしながら、職業倫理に関する内容のキーワードは出現していなかった。職業倫理については、実習以外の授業科目でも学習するため、本実習で改めての記述までには至らなかったのか、あるいは、自明のものとして習得されているのかはわからない。今後の授業科目での確認事項としてとらえておく必要がある。

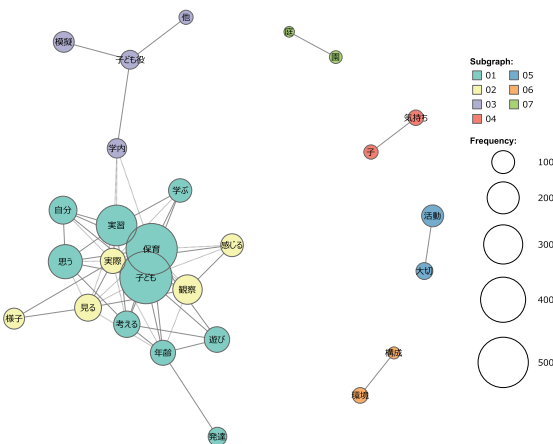


図4 保育実習Ⅰ（保育所）における共起ネットワーク

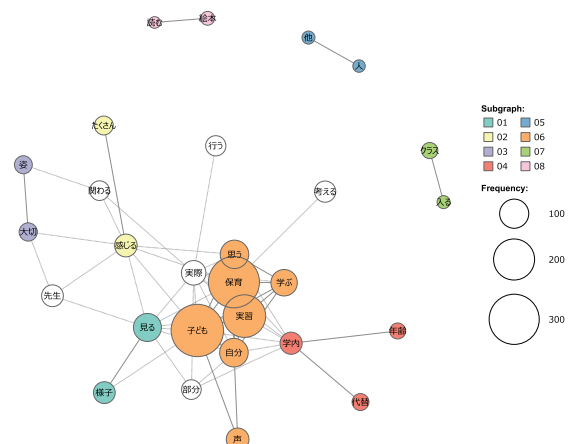


図5 保育実習Ⅱにおける共起ネットワーク

表8 保育実習Ⅱ実習後の振り返りにおける頻出150語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	329	実践	18	同士	10
保育	314	勉強	18	特に	10
実習	216	違う	17	内容	10
自分	96	人	17	反省	10
思う	95	楽しむ	16	ビデオ	9
見る	92	前	16	意識	9
学ぶ	82	担当	16	合わせる	9
実際	70	改めて	15	終える	9
感じる	60	楽しい	15	想像	9
声	60	現場	15	例年	9
学内	57	短い	15	お話	8
先生	55	読む	15	それぞれ	8
様子	55	反応	15	改善	8
考える	52	話	15	頑張る	8
行う	47	言う	14	期間	8
関わる	45	指導	14	呼ぶ	8
部分	44	発達	14	参加	8
たくさん	41	環境	13	使う	8
大切	38	気づく	13	子ども役	8
姿	37	行動	13	手遊び	8
分かる	37	少し	13	受け止める	8
援助	36	名前	13	上手い	8
気持ち	36	教える	12	振り返る	8
今回	36	行く	12	深める	8
経験	34	参考	12	身	8
対応	34	残る	12	前回	8
出来る	33	場面	12	大変	8
代替	33	体験	12	知識	8
クラス	30	伝える	12	目	8
活動	30	得る	12	流れ	8
知る	29	印象	11	いろいろ	7
年齢	29	強い	11	園	7
言葉	27	今	11	貴重	7
聞く	27	今後	11	興味	7
時間	25	多く	11	向く	7
多い	25	必要	11	構成	7
難しい	25	本当に	11	子供	7
関わり	24	一緒	10	思い	7
子	24	一人ひとり	10	手	7
遊び	23	嬉しい	10	重要	7
様々	23	機会	10	食べる	7
絵本	22	工夫	10	生かす	7
学び	22	仕方	10	代弁	7
良い	22	持つ	10	段階	7
理解	21	自身	10	把握	7
トラブル	20	実感	10	力	7
模擬	20	出る	10	話す	7
他	19	初めて	10	ルール	6
入る	19	生活	10	活かす	6
観察	18	動き	10	関係	6

表9 各実習を特徴づける語

保育実習Ⅰ（保育所）		保育実習Ⅱ	
子ども	.353	実習	.204
保育	.330	自分	.123
思う	.206	見る	.121
観察	.152	学ぶ	.121
考える	.123	学内	.090
実際	.117	様子	.081
遊び	.116	声	.080
年齢	.110	先生	.080
感じる	.102	関わる	.075
行う	.089	部分	.068

数値はJaccardの類似性尺度

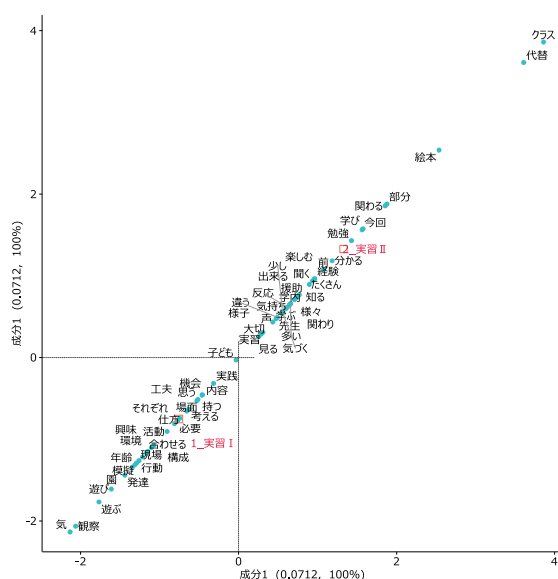


図6 対応分析から見る保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱの特徴

5. 終わりに

新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、実習実施時期が二転三転する中で、保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱをどのように対応してきたかを報告してきた。一部保育所での現場実習を取り入れ、不足分については模擬保育を中心とした学内代替実習を行った。その際、本学教員だけではなく、外部の経験豊富なゲストティーチャーの協力を得て、現場における保育士の業務や保育指導について指導・助言を受けて、より実践に近い形式で実施することができた。他

大学と比較して特筆すべきことは、本学ではオンラインによる授業対応ではなく、対面による模擬保育を中心とした学内代替実習を行ったことである。その際、それぞれの実習単位2単位を90時間45コマで実施したことである。また、学内実習の模擬保育では、3密を避けるためグループ編成を行い、講義室とは別の演習室に保育環境を設定し、保育士役と子ども役を演じる人数を合わせて10人程度とした。合わせて模擬保育実践グループ以外の学生は、他の教室でオンライン講義システムを活用したリアルタイム型によるオンラインで模擬保育を視聴した。また録画を行い、振り返りの際の参考資料としても活用した。

このように実施した学内代替実習は、本来の実習体制とは異なっていたが、学生からは「子ども役を経験することで子どもの視点に立つことができた」や「実習できる機会を逃さないように真剣に取り組むことができ、深い学びにつながった」などの感想が得られた。また、実習できたことの喜びや、実習させていただいたことへの感謝がつづられていた。

最後に、実習担当者として、誰一人として感染者を出すことなく無事に終了できた事に対して、実習生の皆さん、本学学長はじめ関係職員、外部協力者の皆様方に心より感謝申し上げる次第である。この報告書がいつやってくるかわからない非常事態体制下における実習実施に役に立つことがあれば、幸いである。

引用文献

- 1) 厚生労働省子ども家庭局保育課長 令和2年3月2日
新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について
- 2) 広島県健康福祉局安心保育推進課長 令和2年3月3日
新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について（通知）
- 3) 厚生労働省子ども家庭局保育課長 令和2年6月15日
新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000640105.pdf>（情報取得日2020年8月17日）
- 4) 広島県健康福祉局安心保育推進課長 令和2年6月17日
新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について（依頼）
- 5) 藤原映久・宮下裕一（2021）保育士養成課程における

- 学内での演習・実習の試み ―コロナ禍における保育実習Ⅰ（施設実習）の代替として― 島根県立大学・島根県立大学短期大学部教職センター年報 2, 97-104.
- 6) 松居紀久子（2021）コロナ禍での保育実習（学内実習）の実践報告―障害者の生活支援を取り入れた取り組み― 富山短期大学紀要 57, 106-116.
- 7) 板倉史郎（2020）実習指導におけるICT活用の取り組みと可能性―コロナ禍の対応を出発点に― 大阪千代田短期大学紀要 50, 74-85.
- 8) 志濃原亜美・大熊美佳子・三好力・浅井拓久也・北澤明子・島海弘子・関維子（2020）災害時における保育実習・教育実習内容の一考察―新型コロナウイルス感染拡大防止下の実習に関する対応― 秋草学園短期大学紀要 37, 208-221.
- 9) 高橋 一夫・山口 香織・北野 富美子（2021）保育者養成における模擬保育の意義に関する一考察（4）―新型コロナウイルス感染症対策下における実習指導のあり方について―教職課程・実習支援センター研究年報 4, 75-86.
- 10) 児玉珠美・太田美鈴・井出裕子・谷村和秀・服部壮一郎・山本辰典（2021）学内保育実習の在り方に関する実践研究 愛知学泉大学紀要 3, 147-155.
- 11) 三宅一恵・児子千鶴子・湯澤美紀・池田尚子（2021）コロナ禍における幼稚園教育実習事前指導の実際―ハイブリッド型授業の展開と省察― ノートルダム清心女子大学紀要 人間生活学・児童学・食品栄養学編 45, 81-93.
- 12) 前掲7)
- 13) 今野邦彦・原田公人・矢野潤（2021）コロナ禍における特別支援学校教育実習指導の課題 藤女子大学人間生活学部紀要 58, 73-83.
- 14) 佐野友恵・大和晴行・鶴宏史・宇野里砂・小尾麻希子・久米裕紀子・中井光司・西本望・大槻伸子・白井三千代（2021）はじめての保育実習を控えた学生の不安と期待に関する研究 教育学研究論集 16, 18-26.
- 15) 小湊真衣・鳥越ゆい子・望月崇博・青木直樹（2021）保育実習参加予定学生の新型コロナウイルス感染症流行に起因する不安とその支援 帝京科学大学紀要 17, 83-90.
- 16) 灰谷和代（2021）コロナ禍におけるソーシャルワーク実習の対応―オンライン実習プログラムの検討― 東北公益文化大学総合研究論集 39, 99-107.
- 17) 前掲5)
- 18) 前掲10)
- 19) 徳良貞代（1948）幼稚園における二部保育の実際 幼児の教育 47（10）, 20-24.
- 20) 水野浩志（1980）幼稚園の普及状況 岡田正章・久保いと・坂元彦太郎・穴戸健夫・鈴木政次郎・森上史郎 戦後保育史 第一巻 64-74. フレーベル館
- 21) 福山市立大学事務局学務課（2020）保育実習（保育所）の手引き2020年度用 13-14.
- 22) 一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2―「協働」する保育士養成― 中央法規 96-108.
- 23) 樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の承継と発展を目指して― ナカニシヤ出版

（2021年10月19日受稿，2021年11月24日受理）

【Practice Report】 Initiatives in Nursery Practice I (Nursery Center) and Nursery Practice II of the Nursery Teacher Training Program during the COVID-19 Situation

KOBAYASHI Sayoko⁽¹⁾ and SATO Yuko⁽²⁾

Owing to the spread of the novel coronavirus disease 2019 (COVID-19), it became difficult to implement the 2020 Nursery Center Training (Nursery Practice I [nursery center] and Nursery Practice II) during the originally planned period at nursery centers with the same contents. Particularly, it became difficult to conduct the 2-unit, 10-day training program at the nursery centers where it was supposed to take place. For this reason, we carried out a part of a 2-unit, 90-hour (45 class periods) practical training at the training facilities (nursery centers) and the other part through face-to-face, in-school, and substitute practical training. We explain how we implemented this practical training while dealing with the changes in the situation due to the spread of COVID-19, hoping that it helps the future training of nursery teachers in this ongoing state of emergency. The main points of innovation were as follows: 1) devising ways to avoid crowding, 2) introducing a real-time system that connects simulated nursery practice sites and observation sites through an online conference system, and 3) in-school practical training with the cooperation of an out-of-school guest teacher. The text analysis of the reflections and impressions submitted after the practical training by 49 students who participated in this study revealed that the characteristics of students' learning were satisfied in the in-school substitute practical training.

Keywords : Nursery teacher training program, in-school substitute practical training, COVID-19 situation, Nursery Practice I (nursery center),
Nursery Practice II

⁽¹⁾Department of Childhood Education, Faculty of Education, Fukuyama City University

⁽²⁾Educational Practice and Student Support Center, Fukuyama City University